

# 令和三年度日本航空高等学校石川

## 第二回模擬試験問題（国語）

受験番号
氏名

一

次のA～Cの問いに答えなさい。

A 次の1～5の傍線部の漢字の読みを、ひらがなで答えなさい。

- 1 合格を祈願する。 2 眠気に襲われる。
- 3 眺めの良い宿に泊まる。 4 きれいに包装する。
- 5 気力を奮い立たせる。

B 次の1～5の傍線部のカタカナを、漢字で答えなさい。

- 1 作品をテンジする。 2 念をオして確かめる。
- 3 キョダイな足跡を発見する。 4 ビーカーのメモリを確認する。
- 5 実力をヤシナう。

C 次の1～5の問いに答えなさい。

- 1 次の□に共通して入る漢字一字を答えなさい。  
□を差す 焼石に□ □に流す
- 2 次の□に共通する漢字一字を入れ、四字熟語を完成させなさい。  
□信□疑
- 3 傍線部の敬語の種類として適当なものをア～ウから選び記号で答えなさい。  
今日は体育館で練習試合があります。  
ア 尊敬語 イ 謙讓語 ウ 丁寧語
- 4 傍線部の品詞の種類として適当なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。  
彼女の作品はすてきだ。  
ア 名詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞 エ 動詞
- 5 宮沢賢治の代表作として適当なものをア～エから選び記号で答えなさい。  
ア 夜のピクニック イ 破戒 ウ 銀河鉄道の夜 エ 吾輩は猫である

雨が降っている。

雨の日は【A】だ。傘を差すと、彼女とのあいだに、距離ができる。

傘に邪魔されて横顔が見づらくなるのも、おしゃべりをする彼女の声が雨音で聞き取りにくくなるのも、【A】。二つの傘が歩道を並んでいると、向こうから来た人の傘とすれ違えなくて、ほんの二、三秒でも彼女との会話が邪魔されてしまうのも、【A】だ。

彼女は①桜色の傘を差す。

わたしは、若葉色の傘だったろうか。青緑よりも軟らかく、黄緑よりも晴れ晴れとした、桜の若い葉の色の傘……うん、もしかしたら、あの日に差していたのは、今と同じヒアシンスブルーの傘だったかもしれない。美しく澄んだ明るい水色よりは、曇り空のように濁ったヒアシンスブルーの空色が、現実の、本当の色らしくて、わたしはわりと好きなのだ。彼女の新しい桜色の傘があまりに印象的だったから、彼女の色と溶け合うように、わたしの記憶の傘の色まで変わってしまったのだろう。

彼女の傘が桜色だったのは間違いない。桃の色でもサーモンピンクでもない、ほのかな桜の花びらの色。上品な色合いで、彼女に似合っていて、嬉しく感じたのを覚えている。彼女が彼女にびったりのものを持っているとき、わたしはわたしにびったり合う帽子を見つけたようにわくわくして、魔法の鏡の中に輝かしい自分の未来を見つけたように、誇らしく感じていたから。

「サキちゃんはセンスがいいよねえ」

わたしは自分の自慢をするようなくすぐったさで、彼女を褒めるのだ。

「なあに、とつぜん？」

彼女は照れて、【B】困った顔をする。

保育所にいたときも、中学受験の塾に通っていたころも、高校生になった今でも、そうだった。

「サキちゃんは、雨、好きでしょう？」

「そのときによるんじゃないかな。今日みたいな、試験の前の雨なら、しょうがないから家に帰って勉強するかあつて気分になるもの、寄り道したくなくなる良い雨じゃない？」

そのときのわたしは、②雨にがっかりしていた。試験の一週間前と試験期間中だけは、部活動がお休みになって、彼女と一緒に下校できるといふのに、待ちに待った放課後に、雨だ。傘が邪魔する、もどかしい雨降りだ。

わたしと彼女は、中等部までは同じ部活をしていた。高等部からは彼女が別の部活を選んだせいで、活動日が違ったり終了時間がずれたり、昔のようには毎日一緒に帰れなくなっていた。だから、同じ放課後の時間を彼女と共有できる試験の季節がめぐってくるのは、密かな楽しみでもあったのに。

「わたし、靴や鞆が濡れるのは、嫌いだな」

「それは誰でもそうよ」

「それに、このごろ、雨の日にはくしゃみが出るの。湿気のせいだと思うのだけど……」

と、言ってるそばからお笑い芸人のようなくしゃみをして、わたしは彼女に笑われる。彼女が楽しんでると感じるとき、わたしは甘い果物を食べたあとのように充実した気分になる。「バスが来た」

彼女は停留所の列に並び、定期券を手を持ち、傘をたたむ準備を始める。

バスに乗るとき、わたしはいつも、③彼女のあとから乗ることにしている。雨の日にはとくにそうする。なぜなら、バスが停まって、ちょうど良いタイミングで傘をたたんだつもりでも、肩が濡れてしまうのが、わたしは嫌いだ。だから、彼女に同じ思いをさせまいと、先にステップにあがる彼女の頭上にそっと傘を差し出す。どうせわたしは乗るときにもたもたして濡れてしまうのだ。彼女に差し出したせいで濡れる雨粒の数くらいは切り捨てる。

雨の日の路線バスの滑りやすい床や、濡れた傘を持ってしめっぽい座席で小さくなっていることは、嫌いだ。だけど彼女の隣の席におさまってしまえば、その時間は苦行でもなんでもない。

④彼女の隣にいることは、シュークリームの中にカスタードクリームが入っていることくらい当たり前のことで、ガターの溝のない子ども用レーンでボウリングする以上に安心できることなのだ。

たとえば、小学生のときだって中学生のときだって、グループ内でペアを組む必要がでると、わたしと彼女は公認の一对だ。どんな場合も相手が変わることがない。体育でも、グループ活動でも、ずっと一緒だったと思う。

彼女とわたしはいつも特別で、最高の友だちだったのだ。

( 梨屋アリエ 著 「Fleecy Love」 )

問一 空欄【 A 】にはすべて同じ言葉が入る。適当なものを次の語群から選び書きなさい。

好き	嫌い	明るい	暗い	早い	遅い
----	----	-----	----	----	----

問二 傍線部①「桜色の傘」とあるがわたしは彼女とその傘をどのように思ったのか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア あまりに印象的に思い上品な色合いが彼女に似合っていて、嬉しく感じた。
- イ あまりに印象的に思いわたしの記憶の傘の色まで変わって、悲しく感じた。
- ウ あまりに印象的に思い自分と彼女の未来を見つけたように、楽しく感じた。
- エ あまりに印象的に思いわたしは彼女の自慢をしたくなって、切なく感じた。

問三 空欄【 B 】に当てはまる適当な語句を次の語群の中から一つ選び答えなさい。

しつかり さっぱり ちよつぱり ふんわり ねっとり がっくり

問四 傍線部②「雨にがつかりしていた」とあるが、なぜがつかりしたのか。本文中の文章を用いて説明しなさい。

問五 傍線部③「彼女のあとから乗ることにしている」のはなぜか。その理由として適したものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 彼女の肩が濡れないように、バスでは自分と彼女の傘をたたむようにしているから。
- イ 彼女の肩が濡れないように、彼女の頭上にそつと傘を差しだすようにしているから。
- ウ 彼女の肩が濡れてしまうことが嫌いな私は、彼女の代わりに濡れようと思ったから。
- エ 彼女の肩が濡れてしまうことが嫌いな私は、バスで滑らないかを見守っているから。

問六 傍線部④「彼女の隣にしていること」とあるが、どういうことか。本文中から二カ所探し、それぞれ七字で抜き出しなさい。

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

外国のものの移植でいちばんはつきりしているのは、①翻訳である。外国語を母国語に移すというのは、思考の移植にほかならぬ。外国語の初歩の学習者はなんでもかんでも訳せると思っているが、外国語で訳すことのできる部分はごく一部だというのがほんとうのところである。単語一つでも翻訳不能のものがいくらでもある。このごろ日本でも使われるようになったプライヴァシイという語にしても、まだ訳語はない。このままカタカナの日本語になる気配もある。単語でもそうだから、文章や、もつとまとまった書物の単位での翻訳となると、理論的にはきわめて困難であるといわなくてはならない。しかし、現実には、すぐれた翻訳がでており、それによって、読者は啓発されたり、感動させられているのである。そこに、移植の神秘があるように思われる。

【A】、どうした風の吹きまわしであろうか、このごろ、翻訳家になりたいという若い女性がふえている。これまで、翻訳とか翻訳家と言えば何となく文学的な文章を訳すことを想像したもののだが、最近はずっと実用的な翻訳のことを考えているらしいのも変化である。翻訳が芸術から技術になりつつあるのかもしれない。その②技術者としての翻訳家にあこがれる人たちが多くなったというわけである。

翻訳を技術なりと割り切ると、ひとつの言語に盛られている思想内容を別の言語へ移しかえるのが、ここで言う物理的移動に近くなるのは自然の成行きであろう。移動の技術さえすぐれていれば、何でも横のものを縦にできるように錯覚するおそれがある。それで外見上は翻訳されたようできて、その実、翻訳ではないものがますますふえるかもしれない。

翻訳は、ソウと言えばカアと応ずるような具合にはゆかない。すぐれた思想や芸術はしばしば、③当分のあいだ、外国人の近接を拒む。難解でとりつくシマもないような感じを与える。それがやがてすこしずつわかるようになって、しっかりと翻訳が生れるまでになる。この間、三十年くらいは要するのである。翻訳にも移植の法則は適用される。

翻訳は大規模な移植であるが、同じ言語を用いても、自分とは異なった文化的背景をもっている人の思想や表現を理解しようとするとき、その過程はやはり翻訳とかなり似たところをもつことに気づくであろう。一種の移植の作業である。

さらに理解作用そのものが、他者を自分の精神の土壌の中へ定着させようとする移植の作業であるということもできる。④あるときどうしてもわからなかったことが、何年かして、突如として、氷解するというような経験をするのは珍しくない。これも、移植したものが、そのときになってはじめて、生命を確保して、新しい組織の中で芽を出したことを意味するのではあるまいか。

古人の、知己を後世に俟つ、<sup>ま</sup>ということばは悲壮なひびきを蔵しているが、生れた土地が適していないか、移植されたところが合わないかして、長いあいだ、冬眠状態を余儀なくさせられることを覚悟したものと考えられる。

⑤ほんとうにすぐれたものは、しばしば、生れた時代や社会に適合しない、一般の承認を得

にくい性格をもっている。他所へ移してもなかなかすぐには新しい活躍をはじめない。一種かたくななところ、こわばりをもっているのである。

それでいて結局、移植、移動、翻訳、理解などの困難な変化にたえて、真の不滅の生命を得るようになるのは、ほかならぬこういうかたくなで、なかなか新しい環境になじまぬものである。これを⑥古典的性格と呼ぶことができる。

ほんとうにすぐれたものが、よしんば時間はかかっても、人間の心から心へ移植できるといふことは、考えてみればすばらしいことである。

( 外山 滋比古 著 「日本語の個性」 )

問一 傍線部①「翻訳」とあるが、ここでいう「翻訳」を表す言葉を本文中から適切な語を五字で抜き出しなさい。

問二 空欄【 A 】に入る適切な接続詞を次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

アそして イだが ウところで エしたがって

問三 傍線部②「技術者としての翻訳家」とは何をする者のことか、本文中から適切な語を六字で抜き出しなさい。

問四 傍線部③「当分のあいだ、外国人の近接を拒む」とあるが、翻訳が生まれるまで、①どのくらいの期間が必要か答えなさい。また、②それはなぜか答えなさい。

問五 傍線部④「あるときどうしてもわからなかったことが、何年かして、突如として、氷解する」というような経験をするとあるが、それはどうしてか。解答欄の形に合うように答えなさい。

問六 傍線部⑤「ほんとうにすぐれたものは、しばしば、生れた時代や社会に適合しない」とあるが、それはなぜか答えなさい。

問七 傍線部⑥「古典的性格」とはどのようなものか、二十五字以内で答えなさい。

次の漢詩を読んで後の問いに答えなさい。

① 春宵一刻 直千金あたひ

② 花有清香一月有陰ニリ ニ リ かげ

③ 歌管楼台声细细

④ 鞦韆院落夜沈沈しう せん

\*鞦しう韆せん…ブランコ。

\*院落…屋敷の中庭。

問一 この漢詩の形式として正しいものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 五言絶句      イ 七言律詩      ウ 五言律詩      エ 七言絶句

問二 この漢詩で使われている押韻をすべて抜き出しなさい。

問三 ①の句について何が「直千金」なのか、わかりやすく説明しなさい。

問四 ②の句について、書き下し文として正しいものはどれか、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 花に清香有り月に有り陰      イ 花に清香有り月に陰有り  
ウ 花に月に清香有り陰有り      エ 花に陰有り月に清香有り

問五 夜が静かにふけていく様子を表現している句は、①～④のうちどれか、記号で答えなさい。

問六 この詩について正しく鑑賞している文は、次のア～エのうちどれか、正しいと思うものを、記号で答えなさい。

ア 春の宵は素晴らしい。先ほどまでにぎやかだったものも徐々に聞こえなくなり、夜は静かにふけていく。

イ 春の宵はお金を出しても見たいものであって、花や月が美しく輝いているのを見ながら夜は静かにふけていく。

ウ 春の宵は暖かくなったので、にぎやかに歌を歌い楽しんでる。みな寝るまで騒ぐのが好きである。

エ 春の宵は月や花がにぎやかに彩り、人々もにぎやかに歌を歌って過ごしており、夜は静かにふけていくのだった。

## 五

### 作文

歴史上の人物で、尊敬する人を一人挙げその理由を述べなさい。

(人物名を枠外に書きなさい)

- 1 原稿用紙の書き方の約束を守ること。
- 2 題名・氏名は原稿用紙のマスの中には書かないで、始めの行から文を書きだすこと。
- 3 字数は百五十文字以上、二百字までとする。
- 4 できるだけ漢字を使って書くこと。



